

離島発 「グローバル人材」 育成のための「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の探究

「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の実現に向けて必要なのは、各教科と探究学習のプロセスをつなぎ、教育内容を相互の関係性で捉えることである。探究と教科を分断して捉えるのではなく、教科で培われる資質・能力がなければ探究は深まらなないと捉えるべきである。生徒にマネジメントされた教育課程を提供し、探究と教科、教室で学ぶことと地域で学ぶことをつなぐ意識させることで、グローバルを「つなげて考え行動する力」を養うことができる。

本構想の研究開発は、「地域協働推進チーム」を中心に「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」を目指す。卒業後の人材目標を共有しながら、総合的な探究の時間を中心とした教育課程を目指し、週に1度学年部の教員が全員参画で議論する時間を設ける。また、各学年部をつなぐ役割として、主幹教諭2名およびコーディネーター4名を配置し、学年横断的に連動・協働を促進する。探究学習における教員の役割を「伴走者」と位置づける。また、「島根県立隠岐島前高校魅力化と永遠の発展の会」と「魅力化推進協議会」をベースにコンソーシアムを再構築し、地域との協働をはじめ、様々なステークホルダーとの協働を推進する。校内に配置された「コーディネーター」が、地域課題解決型探究学習やカリキュラム開発に係る授業や打ち合わせに参画することで、授業に必要な地域内外のリソースを学校と結び、「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」実現の一翼を担う。

令和2年度の目標

(1) グローバルに課題解決を実践するプロフェッショナルによる授業の実施

グローバルに課題解決に挑む講師を招聘して14回の授業を実施した。授業内の講話はもちろんのこと、講話後には様々な課題解決に取り組む生徒らから個別に質問する機会もいただいた。

(2) 国内外の課題解決実践地域との交流事業の実施

シンガポールやブータン、ロシア、ミクロネシアに行くことができず大幅な計画変更が生じた。シンガポール海外研修の代替として、隠岐でグローバルに触れるプログラムと変更した。

(3) 地域課題解決型学習と各教科で取り組む「地域未来探究」の実施

カリマネを担当する主幹教諭を配置し、複数科目および地元小中学校と連携して実施した。総合的な探究の時間と各教科横断では、教員・コーディネーターと地域住民の地域探究から生み出された授業が複数展開できたが、単元や内容でのクロスが多く、次年度は資質・能力でのクロスが求められるのではないかと。

(4) 第1回「伴走者フォーラム」の実施

「コーチのコーチ」と称される中竹竜二氏をゲストに迎え「第1回伴走者フォーラム」を実施した。「学習者を中心にどのように伴走すべきか」の問いを共有し、参加者で学び合う形式とした。総勢90名が参加した。

取組状況

成果と課題

今年度、達成することのできなかった「グローバルとローカルの往還」におけるグローバル要素については、次年度以降にも新型コロナウイルス感染症は終息しないことを前提に準備を進めたい。具体的には、仮に海外渡航ができなかったとしても生徒たちが隠岐島前と外を比較探究できるようなプログラムを構築したい。

生徒の自己意識および行動実績については数値達成を目指すことはもとより、こうした意識や実績が総合的な探究の時間と教科の時間をいかに往還することで育まれるかを改めて教職員で共有するところから再スタートしたい。総合的な探究の時間と各教科の橋渡しや、資質・能力をどのように教科と探究が一体となって育むことができるかなどをより明確に意識しながら、引き続き地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメントに注力したい。